

テーマ：貿易統計（2013年7月）  
 ～7月実質輸出は弱めの結果～

発表日：2013年8月19日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 エコノミスト 星野 卓也  
 TEL：03-5221-4526

		貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量			
				輸出金額		アメリカ		EU		アジア		アメリカ		EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
12	8月	▲7684	▲5230	▲5.8	▲5.2	▲6.8	5.9	▲15.6	▲7.6	▲1.8	1.1	10.0	▲7.0		
	9月	▲5682	▲9970	▲10.3	4.2	▲11.6	▲3.4	▲18.2	▲10.3	4.7	6.2	▲2.7	▲1.7		
	10月	▲5562	▲5188	▲6.5	▲1.5	▲8.5	1.2	▲21.7	▲7.1	▲0.5	▲0.2	6.4	1.7		
	11月	▲9570	▲8668	▲4.1	0.9	▲7.7	▲0.6	▲19.5	▲5.3	▲0.5	▲9.4	3.1	0.8		
	12月	▲6457	▲7619	▲5.8	1.9	▲11.8	▲7.7	▲14.8	▲9.5	▲0.6	▲3.1	1.0	▲1.1		
13	1月	▲16335	▲7183	6.3	7.1	▲1.5	▲1.2	▲14.4	1.3	▲0.7	▲1.6	5.9	▲3.6		
	2月	▲7813	▲10658	▲2.9	12.0	▲12.8	▲11.3	▲22.3	▲12.5	0.3	▲8.2	4.5	2.1		
	3月	▲3669	▲8848	1.1	5.6	▲7.1	▲9.6	▲12.4	▲6.7	▲4.5	▲10.6	1.8	▲7.5		
	4月	▲8848	▲7187	3.8	9.5	▲3.0	0.2	▲10.9	▲2.2	2.5	▲8.5	7.4	3.2		
	5月	▲9981	▲8187	10.1	10.1	▲1.2	▲3.4	▲16.0	2.1	▲2.2	▲6.7	▲0.8	▲5.5		
	6月	▲1823	▲6632	7.4	11.8	▲5.0	▲6.3	▲8.4	▲4.0	▲4.9	▲2.8	0.6	▲7.4		
	7月	▲10240	▲9440	12.2	19.6	1.8	0.5	1.9	▲1.6	2.4	2.1	4.3	1.3		

(出所)財務省「貿易統計」

## ○7月の実質輸出は前月比▲3.2%の減少

財務省より発表された2013年7月の貿易統計では、輸出金額が前年比+12.2%、輸入金額が同+19.6%、貿易収支は1兆240億円の赤字となった。コンセンサス（輸出：同+12.8%、輸入：同+16.0%、収支：▲7,735億円）対比で輸入が上振れたため、貿易赤字額は事前予想よりも大きいものとなっている。また、季節調整値でみると、輸出金額が前月比▲1.8%と減少に転じる一方、輸入金額は同+2.7%と増加したことから、貿易収支額は9,440億円の赤字と6月から赤字幅が拡大している。

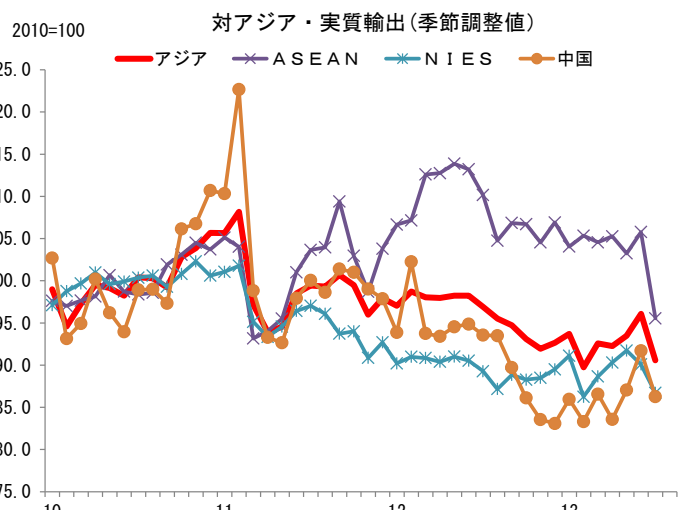
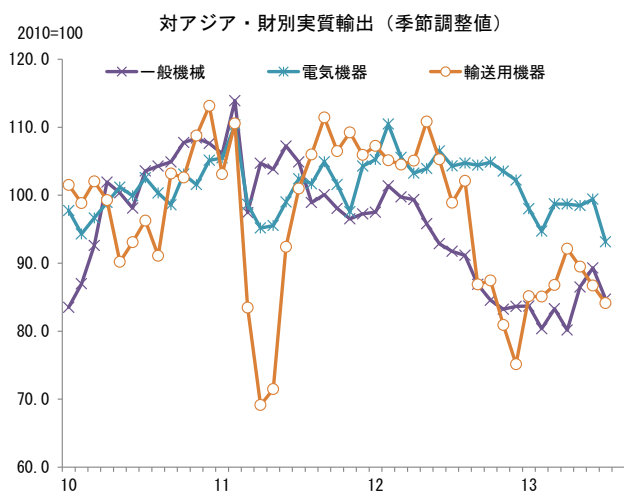
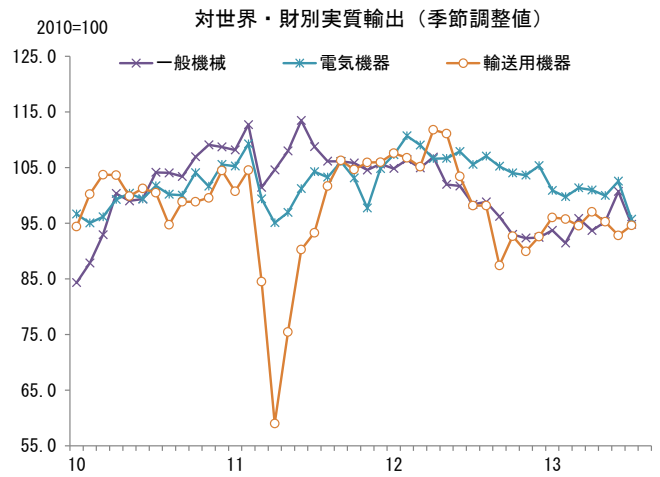
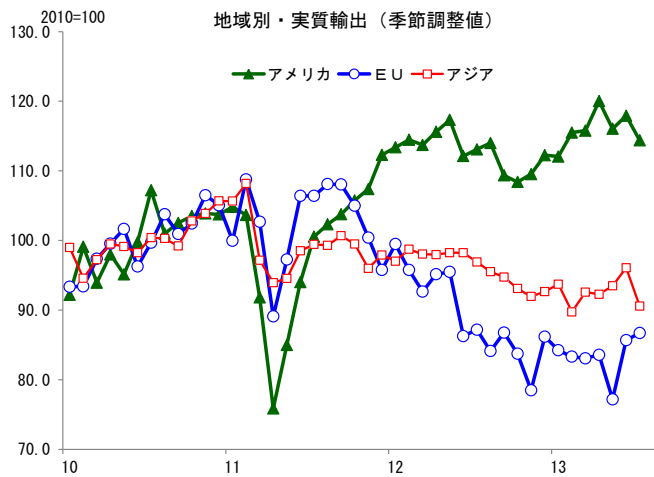
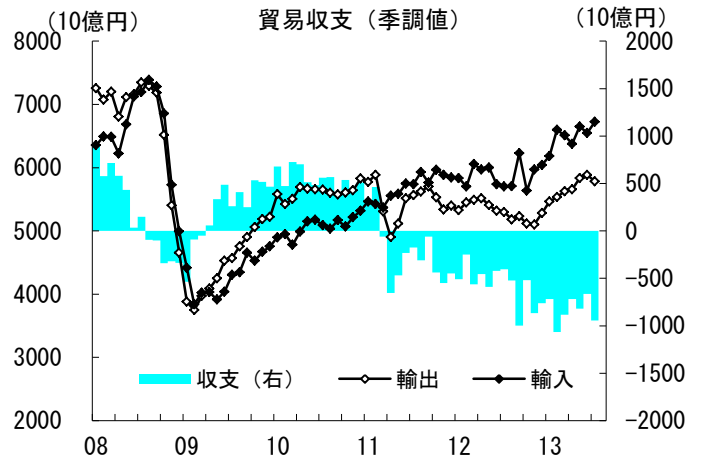
物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）は、前月比▲3.2%（6月：同+2.3%、実質化と季節調整は第一生命経済研究所）と弱い結果になっており、均してみても増加に一服感がみられる。地域別にみると、アジア向け（同▲5.7%）の減少が目立っており、中国向け（同▲5.9%）、中国除くアジア向け（同▲5.7%）ともに減少となっている。また、アジア向け輸出を財別に見ると、一般機械（同▲5.1%）や電気機械（同▲6.3%）の減少幅が大きい。中国を中心とする新興国経済の減速が、資本財輸出の下押し要因となっている可能性があるだろう。米国向けも同▲3.0%と減少しており、このところは回復に一服感がみられる。こうした中、気を吐いたのがEU向けであり、同+1.2%と前月から増加した。これまで景気悪化が続いていた欧州経済の持ち直しが、EU向け輸出の下げ止まりにつながっているものとみられる。

## ○先行きの輸出は円安効果、先進国経済の牽引で持ち直しを予測

このように、7月の実質輸出は前月から減少した。アジア向け輸出の減少が目立っており、新興国経済減速の影響が懸念される結果となっている。

ただし、今後の輸出は持ち直しへ向かうものと予想している。①円安効果の本格化、②米国を中心とした先進国経済の回復がその背景にある。足元では契約通貨建ての輸出物価に下落の動きがみられ、円安による価格競争力の向上が今後の輸出を押し上げることが見込まれる。さらに米国経済の回復も、輸出を支えるこ

とになるだろう。これまで景気の悪化が続いていた欧州経済が、徐々に回復に向かっていることも好材料である。今後、新興国経済の減速が輸出回復の足を引っ張る可能性はあるが、こうした動きを支えに先行きの輸出は緩やかな持ち直し基調で推移するとみている。



(※) 出所はすべて、財務省「貿易統計」。実質輸出の実質化、および季節調整は第一生命経済研究所。